

インテラ・リソースズ (INTR)

ミャンマー情勢好転とインドネシアでの生産開始に期待。22年度財務内容改善で、監視銘柄からの指定解除へ前進も
 シンガポール | 探鉱・生産 | 業績フォロー

BLOOMBERG ITRR:SP | REUTERS INTRG.SI

- 2022/12通期は、原油販売量増と取引原油価格上昇を背景に売上高が前期比2.0倍、当期利益が同3.8倍、純キャッシュフローが同6.8倍と改善。
- 今後の成長の原動力は、軍事政権による非常事態宣言が続くミャンマー情勢好転に加え、試験生産中のインドネシア権益での原油生産開始。
- シンガポール取引所による監視銘柄指定の延長期限は今年12/4。22年度の財務状況改善は監視銘柄からの指定解除へ向けて前進と言えよう。

What is the news?

2/27発表の2022/12通期は、売上高が前期比2.0倍の24.4百万USD、当期利益が同3.8倍の9.5百万USD。合弁事業における共有油田からの販売量が同45.8%増の312千バレル、および加重平均の取引原油価格が同40.4%上昇の99.31USDと堅調に推移した。粗利益率も同14.6ポイント上昇の51.6%へ改善した。期末現金収支では、営業活動キャッシュフローから投資活動および財務活動のキャッシュフローを差し引いた「純キャッシュフロー」が同6.8倍の8.6百万USD、現金および現金同等物残高が同2.6倍の14.1百万USDと改善した。

同2H (7-12月) は、売上高が前年同期比35.4%増の11.9百万USD、純利益が同64.2%増の4.6百万USD、粗利益率が同7.4ポイント上昇の51.3%、純キャッシュフローが前年同期0.3百万USDから4.8百万USDへ拡大した。

地域セグメント別の状況は以下の通り。①ミャンマーの2つの石油契約地域 (チャウクおよびイエナンジャウン) では、2022/12期における国営ミャンマー石油ガス公社との共有原油生産量が1H (1-6月) の151千バレルから2H (7-12月) に7%増の161千バレルに拡大。2Hに新規に2油井を掘削して通期で新規に8油井を掘削したほか新規に10件の水攻法 (油層に水を圧入して人工的に生産レートを維持) を実施。2Hの生産量増加に貢献した。②インドネシアのクアラパンブアン (KP) では、3月末までに油田のパイプ保護鋼管の穿孔と水圧による砂層破碎を通じた試験生産を終えたものの近い将来における実際の生産への寄与は期待されていない。

How do we view this?

現在、ミャンマーは軍事政権による非常事態宣言が延長中。合弁事業の相手先である国営ミャンマー石油ガス公社は、軍事政権の重要な収入源となっているとして欧米先進国などから人権侵害に係る経済制裁の対象となっている。今後の同社の成長の原動力は、インドネシアでの生産開始に加え、ミャンマー情勢の好転が重要となる。

同社は2017年の12/5以来、シンガポール取引所 (SGX-ST) によって監視銘柄 (ウォッチリスト) に置かれていたなか、取引所が昨年12/5、同社が今年12/4までの延長後に要件を満たしていれば監視銘柄からの解除に反対しない旨を確約した。2022/12通期業績は特にキャッシュフロー面で監視銘柄解除に向けた大きな前進だったと評価されよう。

業績推移

※参考レート 1SGD=106.23円、1USD=142.50円

事業年度	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12F
売上高(百万USD)	10.8	12.0	24.5	-
当期利益(百万USD)	-1.2	2.5	9.6	-
EPS(SGD)	0.00	0.00	0.02	-
PER (倍)	-	-	1.65	-
BPS(SGD)	0.06	0.06	0.08	-
PBR (倍)	0.55	0.55	0.41	-
配当(SGD)	0.00	0.00	0.00	-
配当利回り (%)	0.00	0.00	0.00	-

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想 (SGD) - (予想はBloomberg)
 終値 (SGD) 0.033 2023/8/7

会社概要

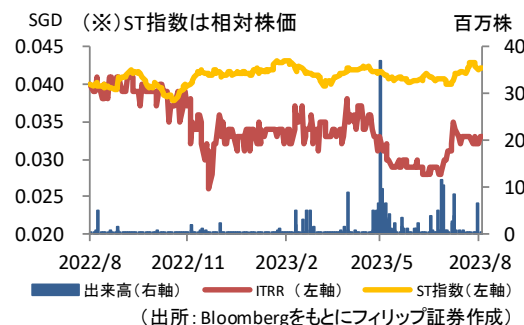
1994年にゴールドウォーター社として設立された、シンガポールを本拠とする石油探査および生産 (E & P) 事業会社。石油生産・油田開発・探査を行う。主にミャンマーとインドネシアの3つの石油契約地域で事業を展開する。

ミャンマー中部では、国営ミャンマー石油ガス公社 (MOGE) との間の2つの改良石油回収契約 (IPRC) に基づき、チャウクとイエナンジャウンの2つの陸上生産油田の約60%の権益を保有する。

インドネシアの中部カリマンタン島の陸上では、クアラパンブアン (KP) 生産共有契約 (PSC) に対して72.75%の権益を有する。このKP探鉱ブロックは、カリマンタン島の南海岸、バラカラヤの南西180kmの地域にある。

企業データ (2023/8/8)

ベータ値	0.37
時価総額 (百万SGD)	22
企業価値=EV (百万SGD)	7
3ヵ月平均売買代金 (百万SGD)	0.1



主要株主 (2023/8)

1.SARATOGA EQUITY PARTNERS I	10.89
2.SHINING PERSADA INVESTMENTS PTE	8.09
3.Ng Soon Kai	7.91

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 +81 3 3666 6980
 kazuhito.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。